

様式第3号(第12条関係)

開 催 記 録

名 称	令和6年度第2回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和7年2月7日(金) 午後 2時00分から 午後 3時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所 301会議室
出席委員氏名	菊池委員、小山委員、飯島委員、辻委員、篠田委員、阿部委員、山本委員、森田委員、笠井委員、小林委員
欠席委員氏名	無
担当課職員職氏名	中原市長 荒川都市建設部長 堀江副部長兼河川下水道課長 曾我課長補佐兼下水道担当副主幹 小木曾主任
会議次第と会議の公開又は非公開の別	次第：別添参照 公開
傍聴者の数	1名
非公開の理由	
資料の名称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	飯島正義委員、辻健人委員
その他の必要事項	
内 容	<p>■開会</p> <p>○中原市長あいさつ</p> <p>「今回の審議会は、令和6年8月に新たに委員委嘱をさせていただいてから、初めての開催となる。継続して委員をしていただく方におかれましては、引き続きよろしく願いするとともに、今回から審議委員となられる方におかれては、下水道事業を円滑に推進していくために、忌憚のない意見を賜りたい。</p> <p>先日、八潮市において下水道の腐食が原因と思われる陥没事故が発生した。今回の事故を受けて、吉川市でも独自に緊急点検を実施し、職員により腐食の状況を確認している。下水道は、市民の方々にとって分かりにくい部分も多いが、審議会においては分かりやすい説明を心がけ丁寧に進めていきたいと考えている。委員の皆様にはぜひ市民の</p>

方々との懸け橋になっていただきたいと思います。

下水道事業は、雨水に係る経費を税金で賄い、汚水に係る費用を下水道使用料で賄っているが、下水道料金は平成10年4月から料金改定をしてきていない。来年度は経営戦略の改定を控えているが、今後の人口減少や施設の更新等を見据え、持続可能な経営となるよう、料金改定についても、委員の皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

なお、本日の審議会では、令和7年度下水道事業会計及び農業集落排水事業会計の当初予算案について説明させていただく。

委員の皆様からは、様々なご意見をいただきたいと思います。

■自己紹介及び職員紹介

■議事

○会長及び副会長の選出について

・下記のとおり会長・副会長を互選により決定

会 長：菊池委員

副会長：小山委員

○令和7年度吉川市下水道事業当初予算

事務局より「令和7年度吉川市下水道事業予算」について説明

【質疑応答】

笠井委員：八潮市の陥没事故では、下水道管と道路はいずれも埼玉県
の管理であるとのことだが、今後、吉川市においても負担が増
える可能性はあるのか。

事 務 局：建設費用に係る負担金については、負担割合に応じて、構成
市町で負担している。今回の事故により、県では多大な費用
が発生していると推測されるが、現時点で負担についての話
はない。今後、県から何らかの調整はあるかもしれない。ま
た、維持管理に係る負担金については、令和6年度まで1立
方メートルあたり40円を埼玉県へ負担することとなってい
たが、維持管理費の増加により令和7年度から43円に値
上がりしたところである。事故を踏まえて、点検費用等が増
加することがあれば、吉川市の負担も増える可能性はあると
考えている。

菊池会長：今回の事故があった場所は、春日部市や越谷市など12の市
町の下水が流れ込んでくる、全国でも有数の5メートル近い
大きな管が通っている場所である。通常、流域下水道事業に

については、関係市町で費用負担を行っていることから、今回の事故についても、同様に吉川市に負担が生じることが考えられる。今回の八潮市の陥没事故では、下水道管渠の腐食が事故を引き起こしたと考えられているが、下水道管は水道管の整備より概ね20年程度遅れて整備されたことから、下水道管に比べ水道管の老朽化の方が深刻であると言われていた。そのような状況の中で、今回の事故が発生し、下水道管渠の老朽化が深刻で、施設更新が必須であることが判明した。しかしながら、各家庭の設備は節水型のものに置き換わり、人口も減少していく中で、下水道使用料収入は減少していく。一方で、管渠の更新費用等の経営に必要な費用は増加していくことになり、今後下水道事業は非常に厳しい経営が強いられていくことが考えられる。吉川市は私の感覚では、管渠が老朽化していないことや下水道使用量の減少が他市に比べて緩やかであることなどから、経営状況は全国の間くらい位置であると考えているが、今後管渠の更新時期を迎え、経営は厳しくなっていくことが予想される。料金の値上げに関しても、無尽蔵にはあげられないことから、将来的には、施設のダウンサイジング等も検討していく必要がある。

小山副会長：八潮市の事故現場は、私もよく見知った道であったため、非常に衝撃的であった。今回の事故を受けて、今後維持管理費が増大する可能性はないか。その場合、予算はどのように対応するのか。

事務局：八潮市の陥没事故を受けて、国は下水道管理者へ緊急点検の要請を出したが、対象は下水処理場に接続する大きさが2メートル以上の流域下水道管である。市内については、2メートル以上の県が管理する流域下水道はなく、また市が管理する下水道でも大きさが20センチ、25センチのものが大半を占め、最大でも1.1メートルのものがあるが、全体の0.1パーセントにも満たない延長である。しかしながら、このような事態を踏まえ、吉川市独自に点検を行っており、具体的には、職員によりマンホールの蓋の裏とコンクリートの内壁について、腐食の状況を確認するとともに、マンホール内の流れの状況、堆積物の有無についても確認している。さらに、並行して、下水道が設置されている地域の道路路面状況を隈なく調査し、表面上のへこみや、たわみなどを確認した。マンホールの目視点検については継続中だが、路面状況調査では数か所について、へこみなどが発見されたため、これから対応について検討を進めていく。点検結果を踏まえ、緊急修繕等の必要性が出てきた場合には、補正予算等で

対応していく。

飯島委員：埼玉県では、報道等で5年に1度の点検を行い、ABCの評価を行っていると聞いている。吉川市でも定期的な点検を実施しているのか。また、下水道管の布設年次や場所などについて公表してはどうか。

事務局：吉川市においても腐食の恐れが大きいとされるところが3箇所あるが、異常がないことを確認している。また、下水道管の布設年次や場所については、市の窓口で確認することができる。

○令和7年度吉川市農業集落排水事業当初予算

事務局より「令和7年度吉川市農業集落排水事業予算」について説明

○吉川市下水道事業及び農業集落排水事業経営戦略について

事務局より吉川市下水道事業及び農業集落排水事業経営戦略について説明

【質疑応答】

篠田委員：今回より委員になり、初めて審議会に参加した。農業集落排水事業を行っている八子新田・鍋小路地区とは吉川市のどのあたりか。

事務局：中村病院がある県道よりも北側の地区である。

笠井委員：農業集落排水事業の成り立ちについては、地域の人から聞いている部分もあるが、この地域に住んでいない人にとっては、なじみがないものかと思われる。今後審議を行うにあたり、まず事業の概要などについても、学ぶ機会があれば非常に有用であると考えます。

中原市長：非常に良い考えである。経営戦略の議論を始める前に、そういった機会を設けられるよう進めていく。また、下水道についても、ポンプ場など実際に見たことがないとイメージがわからないものもあるかと思うので、そういった施設を見る機会なども検討していきたい。

飯島委員：令和3年策定の経営戦略では、令和2年度の技術職員は0名となっているが、令和6年度現在では何名か。

事務局：令和6年度河川下水道課では3名の技術職員がいるが、そのうち下水道事業に携わっている技術職員は2名である。

	<p>■その他</p> <p>今後のスケジュールを事務局より説明。</p> <ul style="list-style-type: none">・「令和7年度吉川市下水道事業当初予算」及び「令和7年度吉川市農業集落排水事業当初予算」について 今後、3月議会に上程する予定である。・「令和7年度第1回吉川市下水道事業審議会」について 経営戦略の改定については、現在、業務を支援いただく業者の選定作業を行っている。次回の日程については、業者決定次第、スケジュールを調整の上、改めて連絡させていただく。
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和7年3月4日</p> <p>署名委員 飯島 正義（自署） 署名委員 辻 健人（自署）</p>	